

序 文

長崎大学公開講座叢書は、昭和60年に第1集が発行されて以来、今回で第12集になります。今回の主題は、「地域環境の創造」で、全6部、27章からなっています。

環境とは、「そのものと何らかの関係を持ち、影響を与えるものとして見た外界」と定義され極めて広い意味の外界が含まれます。宇宙・地球環境問題から、公害、健康、都市、気象、エネルギーなど生活と密着した環境問題が学問の対象になります。また、環境を学ぶ場合、環境物質といわれる物質的側面が主に論じられますが、生物とくに人間を対象とする場合には精神的・文化的側面がより重要であり、さらには行政の係わりが必要であります。環境科学が総合科学である所以でもあります。

さて、長崎県は海洋に面し、近海には多くの小島が散在し、陸地には火山や温泉も有しています。美しい風土がある反面、風水害など自然災害や火山災害の問題があります。また、地形的には、とくに長崎市は斜面都市の特性を示し、入りくんだ港と山の緑と斜面の住宅とが美しいコントラストをなしていますが、大気や水質の汚染問題を抱えています。このような生活環境に住む人達には、地形の特性に対応する知恵が求められますし、また高齢者に対しては地域の支援と生活の工夫が必要です。ところで、長崎市は原爆による災害を蒙りました。環境の中には放射線以外にも多くの人為的災害を惹き起こす要因が存在しています。このように長崎を種々の観点から眺めると、長崎は良きにつけ悪きにつけ環境を学ぶには非常に適切な対象といえます。

本集は、長崎というユニークな地域が抱えている環境問題を多方面から眺め、分析し、そして新たな環境の創出を論じたものです。長崎大学からの地域環境創造のための具体的提言として受けとって頂き、広く活用して下さることを願っています。

終わりにあたり本書を企画された生涯学習教育研究センター運営委員会と執筆者各位に敬意を表しますとともに、刊行にご尽力頂いた大蔵省印刷局に深く感謝致します。

平成12年2月

長崎大学長 池田高良